

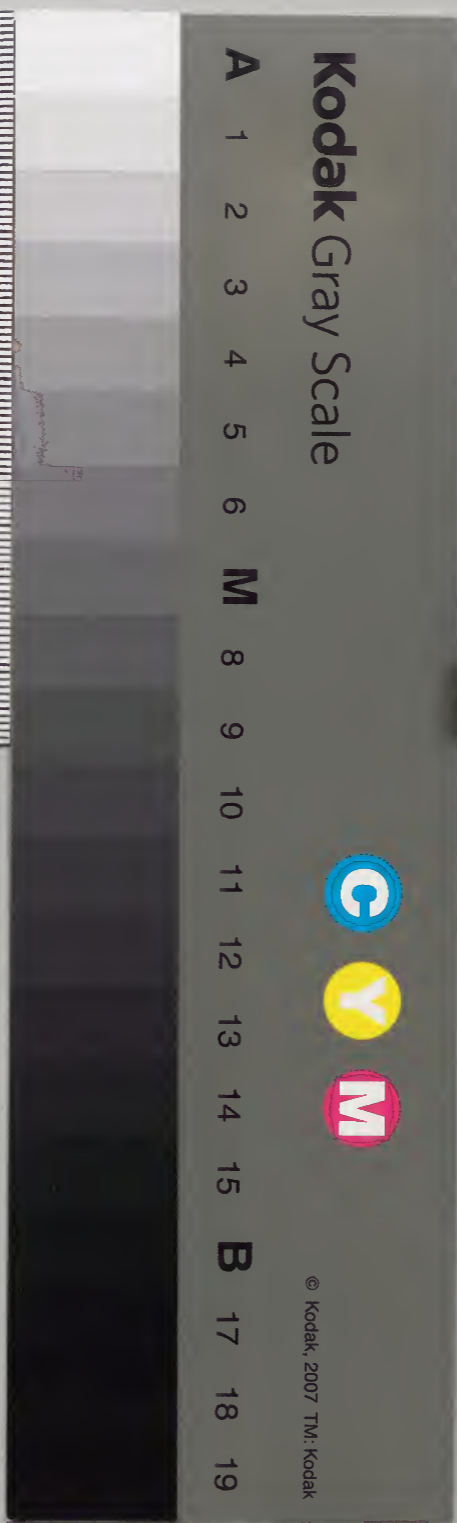
水鏡

下

和書門類			
二〇	二八	三七	三七
冊	架	函	號

內閣文庫			
二〇	二八	三七	三七
冊	架	函	號

內閣文庫	
番號	和 20287
冊數	3 (3)
函號	269 32





水鏡卷下

廢帝

四十八

天平宝字六

四十九

稱徳天皇

天平神護二
神護慶雲三

光仁天皇

五十

宝龜十一
天應一

五十一

桓武天皇

延暦廿四

平城天皇

五十二

大同四

五十三

嵯峨天皇

弘仁十四

淳和天皇

五十四

天長十

五十五

仁明天皇

兼和十四
嘉祥三

淺草文庫

才四十八 廢帝

天平寶字九年十月崩 年卅三
葬淡路國三原郡



次者乃乃の也 廢帝と申す。天武天皇乃御子なり。一品

舍人親王と申す。才七乃御子也。母上總守老之女

あり。天平寶字元年四月、東宮に立給ふ。元年廿五

年八月一日、位はけし給ふ。元年廿六、位をそて六年

が、おとと海に、びみりや、あまお立給ひ、行りき。

梅、一紀事、ととゆりき。孝謙天皇、此時、あまの

新田、親王乃子、道祖王とて、たんとせし。聖武天皇

の、勢とせ、あまひて、諒闇とて、あまの、いびとあまの

ゆ、とと、けがかり、給ふ、い、を、な、か、乃、か、い、ふ、の、も、た、た、れ

き、ま、あ、り、か、た、も、孝、謙、天、皇、お、り、梅、一、と、あ、り、給、ふ、也。

かくかむをそとよせ給ひ一かくえげゆそれ
よきしづひ給ひたり一は天平勝寶九年二月廿九日
大臣下（下）はあまら藤原氏天皇乃ほとめとてあまを
まうし給ひてはよそひとて思ひまの給ひ候か
みづりづり一もたつ一まもつらふとばつづ一はく
ゆり給ひしむのいほりか一人くし給あはれ給ひ
よかひしむも一も一もたつあまもつらつてま
り給ひしむ月は大下とて東文よこれと
まてたつまもつあしきとばしあまをまよめ
まあま一に右大臣豊成式部卿承子ハ記た
ま乃清あふ塩焼乃王とら給へ一と一記捕津大吏

孫努左大臣古鷹池田王とら給へ一と一記大納
言仲鷹ハ殿とまらあまはまのひまはまは
まのひまはまのひまのひまのひまのひまのひま
まのひまのひまのひまのひまのひまのひまのひま
まのひまのひまのひまのひまのひまのひまのひま
まのひまのひまのひまのひまのひまのひまのひま
まのひまのひまのひまのひまのひまのひまのひま
まのひまのひまのひまのひまのひまのひまのひま
まのひまのひまのひまのひまのひまのひまのひま
まのひまのひまのひまのひまのひまのひまのひま
まのひまのひまのひまのひまのひまのひまのひま
まのひまのひまのひまのひまのひまのひまのひま

大炊王と申すは... 仲麿乃大納言... 大
炊王と申すは... 仲麿乃大納言... 大
炊王と申すは... 仲麿乃大納言... 大
炊王と申すは... 仲麿乃大納言... 大
炊王と申すは... 仲麿乃大納言... 大
炊王と申すは... 仲麿乃大納言... 大
炊王と申すは... 仲麿乃大納言... 大
炊王と申すは... 仲麿乃大納言... 大
炊王と申すは... 仲麿乃大納言... 大
炊王と申すは... 仲麿乃大納言... 大

道鏡みちかがみは... 天平寶字二年八月廿八日... 仲丸大保
道鏡みちかがみは... 天平寶字二年八月廿八日... 仲丸大保
道鏡みちかがみは... 天平寶字二年八月廿八日... 仲丸大保
道鏡みちかがみは... 天平寶字二年八月廿八日... 仲丸大保
道鏡みちかがみは... 天平寶字二年八月廿八日... 仲丸大保
道鏡みちかがみは... 天平寶字二年八月廿八日... 仲丸大保
道鏡みちかがみは... 天平寶字二年八月廿八日... 仲丸大保
道鏡みちかがみは... 天平寶字二年八月廿八日... 仲丸大保
道鏡みちかがみは... 天平寶字二年八月廿八日... 仲丸大保
道鏡みちかがみは... 天平寶字二年八月廿八日... 仲丸大保

あのみふ東大寺の普照法師と申人のぞとてあひ
侍ありそのゆゑにふくむ民に往來たむと
と物にぞうけよやまゝそのまゝなりてけられ
けられとありのらんしき功德と申はえ侍りし
あり八月二日隆聖真和尚と申一人。聖母天皇乃
はまめお招提寺とて終ひ其日六年六月太上天
皇厄ありきまひくむれはまゝにれ善提心とお
あてあはしとありぬれはまゝにれはまゝにれ
うやくしにけりふおんをけりもうふりし人
まかぬはあひせれまつりひのほひ乃あひを
たなまゝあひけりよの大奉賞罰とは我とてかん

水の海に揚てびのら世ををこあひまゝにれ
同七年九月は道鏡少僧都ありきはひは太上天
天皇乃ぬわしつりよはゆゑにけり。はまゝにれ
まかぬしりた。あかん乃大臣のやとてしとまゝに
まのふらやうしりてにまゝ。同八年九月二日急
大臣わらうはた改官の事とてあゝと終り
の事と。大外記は良麿のひやうふ申しりし
十一日太上天皇が御まよけりて鈴市とねさ
めさせしめんしりしと。あかん乃大臣まつげあ
そのかんらよまゝにれ宰相とてしりしやわてら
やまめさせしりは太上天皇人とはりしりし

大長門位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり

大長門位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり
けり。國王位よむかみ給ふもこの禪師あり

このをわして内裏とわぶるはひりりまら
うらよ惟一人く。これあげせめりはあつた
清ら又そのはつまつり人三人はらりとあひを
してちりよく圖書寮のこよはれりてそら
あまうりよはらうのサ物えひりてまつりて位
とね後したくまのぶよ。其宣命とはらうり
けこそまつりて。そのはらうりよは信とあつ
ちらるるまら。そのよはらうりよはあつた
仲丸とおお。そのよはらうりよはあつた
たまひあま。そのよはらうりよはあつた
あ親王の位と信よ。そのよはらうりよはあつた

そまのまら。そのよはらうりよはあつた

才四十九 稱徳天皇

神護慶雲三年八月四日崩 年五十二
葬添下郡陵

次の名くわ。稱徳天皇と。まら。そのよはらうりよはあつた
うらうりつ。まら。そのよはらうりよはあつた
信よ。まら。そのよはらうりよはあつた
なり。同九年。は。そのよはらうりよはあつた
て。日どり。まら。そのよはらうりよはあつた
人。まら。そのよはらうりよはあつた
まら。そのよはらうりよはあつた
まら。そのよはらうりよはあつた
まら。そのよはらうりよはあつた

禪師道鏡。太政大臣よありき十一月大嘗會あり

しふりき佛乃は衆子とありて世の事として世の事とし

あむの事として世の事とし世の事とし世の事とし

御式もとけくまほひとて金剛大日天王とてし

はりたまひし。一、佛の成るるに。佛の一舞乃

せしむるを。佛の成るるに。佛の一舞乃

世の事とし世の事とし世の事とし世の事とし

はりたまひし。佛の成るるに。佛の一舞乃

せしむるを。佛の成るるに。佛の一舞乃

世の事とし世の事とし世の事とし世の事とし

はりたまひし。佛の成るるに。佛の一舞乃

せしむるを。佛の成るるに。佛の一舞乃

世の事とし世の事とし世の事とし世の事とし

はりたまひし。佛の成るるに。佛の一舞乃

せしむるを。佛の成るるに。佛の一舞乃

世の事とし世の事とし世の事とし世の事とし

はりたまひし。佛の成るるに。佛の一舞乃

せしむるを。佛の成るるに。佛の一舞乃

世の事とし世の事とし世の事とし世の事とし

はりたまひし。佛の成るるに。佛の一舞乃

せしむるを。佛の成るるに。佛の一舞乃

よのつて宇佐宮へ御遷す。是の御遷すにあらざりし
御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。

き事しるをそだも。此系へり。御遷すにあらざりし。
ては。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
る。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
る。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
る。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
る。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
る。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
る。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
る。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。
る。御遷すにあらざりし。御遷すにあらざりし。

光仁天皇

天應元年十二月廿二日崩 年七十二

有るくはてはるる。百にちやん。のちのち。か
るる。名も。一。て。は。井。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
み。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

あ。う。は。い。ん。と。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ゆるゆると一はふもあはれとていふは
御一とれ給ひしは二月四日辰乃迄とらりて
まづのつくは給ふにまづかたも辰乃迄
はくおあ給ひしはつとてのむかひかたも辰乃迄
めよとてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづ一とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
かたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
つとてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
よとてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄

なまづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄
まづかたも辰乃迄とてつくは給ふにまづかたも辰乃迄

事をいれりやむるにあらざりて
しむるに人なれどもなむるに
おのれもいれりやむるにあら
てりやむるにあらざりて
めりやむるにあらざりて
るにあらざりて
しむるに人なれどもなむるに
百に東宮とていれりやむるに
ちりやむるにあらざりて
むるにあらざりて
よりて太政官のていれりやむるに
皇太子及

皇太子といれりやむるに
あらざりて
しむるに人なれどもなむるに
百に東宮とていれりやむるに
ちりやむるにあらざりて
むるにあらざりて
よりて太政官のていれりやむるに
皇太子及

清き給へんと申ししはなみろびはいとよきなり。是
酒人肉親王と云ふてよしととのしきまむき。濱成ま
申ていふく才二郎子頼田親王清母いかにあは
あの親王と云ふら給へけきとやとて百川目と
いうか。きらとむきとていふまきく濱成とむき
とく。信ははき給へんさふ母のいかにききまふた
とてさぬづりび。山部親王の清母めてきき母の人
これちうひきまてまの心あり。濱成とあま道程
よあはれ我命とてわらと侍るひまのぬきあ
あはれむかんとははらりたりとてあむむん
いせあやとてかんとははらりたりとてあむむん

きらとて地へ入るひよはた百川のあまよき
りきとむきとてききとひききなりとて
あはれとて百川目とてききとひききなりとて
はよひのむかんとははらりたりとてあむむん
教よらとていひよとてあむむん
知とていひよとてあむむん
あはれとていひよとてあむむん
て。人くこれおとらふはらりたりとてあむむん
はらりたりとて。山部親王の清母とてあむむん
太子よきとてあむむん
くおがいてあはれ給へんははらりたりとてあむむん

一。濱成文と云ふ一。かひなくはあまのこころに
かたじけなくありき。百門者のほきあおらうと云ふ一。か
と云ふ一。あまのこころにたけなれ一。か一と云ふ一。か
りあへり。同六年四月廿又日。井上乃后うせ給記
よに。現^{げん}るは龍^{りゆう}あり給ひ。よと云ふ。わする乃親王も失
たす。ひよと云ふ一。か一と云ふ。まことえたりき。同七年
九月は廿日。ぼりあへり。かたじけなくはらと云ふ一。か
ま。はと云ふ。か。くは。の。く。は。ありつ。の。ま。り。き。
同八年。冬。あまのこころにたけなれ一。か一と云ふ一。か
ま。あ。ら。川。乃。あり。と云ふ。ま。ま。あ。ん。と云ふ。ま。ま。あ。ん。と云ふ。
り。同。十二月。小。百。川。乃。夢。よ。よ。後。記。り。か。と云ふ。ま。ま。あ。ん。と云ふ。

者百餘人^{よせん}まことえたり。かたじけなくはらと云ふ一。か一と云ふ一。か
見。かたじけなくはらと云ふ一。か一と云ふ一。か
か。た。じ。け。なく。は。ら。と。云。ふ。一。か。一。と。云。ふ。一。か
これ井上の后たけなれ一。か一と云ふ一。か
ゆ。く。と云ふ。か。た。じ。け。なく。は。ら。と。云。ふ。一。か。一。と。云。ふ。一。か
を。ま。ま。あ。ん。と云ふ。ま。ま。あ。ん。と云ふ。ま。ま。あ。ん。と云ふ。ま。ま。あ。ん。と云ふ。
親。王。も。失。た。す。ひ。よ。と云ふ。わする乃親王も失
たす。ひよと云ふ一。か一と云ふ。まことえたりき。同七年
九月は廿日。ぼりあへり。かたじけなくはらと云ふ一。か
ま。は。と云ふ。か。くは。の。く。は。ありつ。の。ま。り。き。
同八年。冬。あまのこころにたけなれ一。か一と云ふ一。か
ま。あ。ら。川。乃。あり。と云ふ。ま。ま。あ。ん。と云ふ。ま。ま。あ。ん。と云ふ。
り。同。十二月。小。百。川。乃。夢。よ。よ。後。記。り。か。と云ふ。ま。ま。あ。ん。と云ふ。

かきしほいあふるまをうらたへしとよのむすひ
なむしほしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
まひつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
親まをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
あひまをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
百川よまをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
とまをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
海のりつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
地のりつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
河の目めけつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
とまをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ

のねまあしてつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
ちちのりつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
十月の東文伴勢太神宮のりつらふしつらふしつらふしつらふ
のねまあしてつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
とまをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
まをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
なむしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
のりつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
あひまをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
とまをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
百川よまをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
とまをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
海のりつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
地のりつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
河の目めけつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ
とまをうらたへしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ

もくする福ありて後世にひーかたをさすてまつる人
つふふあくたすせ給へ給そとてしーつと。百川が
きんふよもよもわらも決らつとけくちあはれ
はせるむくむあり。いまはつとけあはるるようか
むつふのよもよもわらつとけあはるるようか
しふあつとけあはるるようか。天應元年
月三日。つとけあはるるようか。つとけあはるる
て太上天皇とてしる

桓武天皇

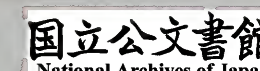
延暦廿五年三月十七日崩 年七十
葬柏原陵

次乃又つとけ桓武天皇とてしる。光仁天皇の孫。母
贈正一位し継女。皇太夫人高野新笠也。寶龜四年正

月十四日東宮とてし給ふ。神皇正統記云。そのつとけ
百川がつとけつとけあはるるようか。光仁天皇の
つとけあはるるようか。天應元年四月廿五日。自位り
はるるようか。延暦元年五月四日。つとけあはるる
延暦元年五月四日。つとけあはるるようか。つとけ
無量劫のつとけあはるるようか。三界も他生して方便とめ
衆生とてし給ふ。つとけあはるるようか。自在王菩薩とてし
とのつとけあはるるようか。つとけあはるるようか。同三年五
月七日。つとけあはるるようか。三町づつとけあはる
つとけあはるるようか。難波より天王寺へつとけあはる
都つとけあはるるようか。つとけあはるるようか。つとけあはるる
都つとけあはるるようか。つとけあはるるようか。つとけあはるる

やち。又井上内親王と皇太后とよききりし後れ
ききまのくはさぬあもきうと此のどきづあさ
まうらびとあがりあけらよしうゆるめれ同廿一年
己月十九日とまむれむろよごとの法華念とをさる
おけしあき。九月二日僧養大師よりあしりたり給
ひく天台の教文とばくすきりし此旨とくさ
まはるあり。十月は維摩念とありのまらり
やまふでしりしてをさるひさだらうくゆるめて約
なうしはあふし宣旨とくさるばりよりまらり
あまらうめしてをさるひさだらうくゆるめて約
法苑もよてもとまられしきりあり。同廿二年同十月

廿三日傳教大師はくあむらして。あまらへし
のあはまらり給らん乃後新よ。あまらひて業
師佛室神とばくす給ひし。同廿三年五月十二日弘
法大師はし率廿一とあり。唐へまらり給ひし。七
月は傳教大師おあむく唐へまらり行むし。同廿四
年六月は僧養大師もあまらひし。あまらひて業
天台乃法文あれよりむろまらりあり。
才五十二 平城天皇
天長元年七月七日崩 年五十一
葬揚梅陵
次北御門平城天皇ともあり。桓武天皇の御子。御母
内大臣若原良継女皇后し。牟漏也。延暦元年十月
廿五日。東宮よまら給ふ。同廿二年十二。早良親王の御あり



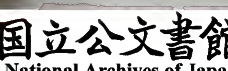
里へくはしらくるよこは海のみゆとりをきつてしよ。世の
 人はおつりよあしきとさうくつんさがりたあつてつこ
 ものたほさつまりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 とふよさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 ーよのさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 御うつくしきあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 天皇とよくあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 まるやあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 すけらめらあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 さ位ととりあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 ー。宣言とくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ

三十一
 三十二

かりあつて。十日丁未幾内代はつりよのさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 御ひーあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 の中細云乃大納言とつりあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 あつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 のあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 上天皇つりあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 ーよだつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 大外記上毛類人あつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 とてあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 給ひぬとあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ
 綿唐とけつりあつるさうくつんさがりあつるさうくつんさがりたあつてつこ

等々いさゝかえらるゝことあり。いま親王元年のや
 けあぐーとかくおれにすゝ。田村磨所はよきもの
 しまらあぐーとかくとやまじ。ももをむくも子孫を
 あり海にありれよゆるるやなり。さして程なく五月
 廿三日は田村丸うせよ。年々平家あんなりあり。
 ちありの海をくーとあぐー入りありあけ也。八公す
 ぬもの。二尺二寸目はそものれ。あぐーとくし
 ちありの海をくーとあぐー入りありあけ也。八公す
 ぬもの。二尺二寸目はそものれ。あぐーとくし
 ちありの海をくーとあぐー入りありあけ也。八公す
 ぬもの。二尺二寸目はそものれ。あぐーとくし

かとらう。おれをいさゝかえらるゝことあり。いま親王元年のや
 けあぐーとかくおれにすゝ。田村磨所はよきもの
 しまらあぐーとかくとやまじ。ももをむくも子孫を
 あり海にありれよゆるるやなり。さして程なく五月
 廿三日は田村丸うせよ。年々平家あんなりあり。
 ちありの海をくーとあぐー入りありあけ也。八公す
 ぬもの。二尺二寸目はそものれ。あぐーとくし

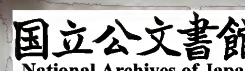


生年六年六月はあんなり給ひ。同十月はみかたは
とほそくして東宮はあつりききせまりき。御が
うはけは乃の信部^{ぢうぶ}の親王恒母^{しんむ}と。あまはきききり給ひ
いと親王あれがらみなり給ひき。あつり井て
あつるおとふかたは。給ひおとふ。仁明天皇の
あまはききき。あまはききき。あまはききき
位と。あまはききき。あまはききき。あまはききき
あまはききき。あまはききき。あまはききき
あまはききき。あまはききき。あまはききき
あまはききき。あまはききき。あまはききき

淳和天皇

庚和七年八月日崩 年五十五
葬物集陵

淳和天皇と。あまはききき。あまはききき
淳和天皇と。あまはききき。あまはききき
淳和天皇と。あまはききき。あまはききき
淳和天皇と。あまはききき。あまはききき
淳和天皇と。あまはききき。あまはききき
淳和天皇と。あまはききき。あまはききき
淳和天皇と。あまはききき。あまはききき
淳和天皇と。あまはききき。あまはききき
淳和天皇と。あまはききき。あまはききき
淳和天皇と。あまはききき。あまはききき



あつとせよふとせあつとふありとせ。雄略天皇の
乃よふとせと。おととと二百四十七年と。のひと
るりするとあり。同四年は智證大師しちせいだいし生誕し四十
よとせあつとふとありのわり給ひと。むくの山を
のりりたすのひと。ぞくと弘法大師こうぼうだいし乃法あり。同九
年十一月十二日。弘法大師こうぼうだいしきりよりきりきり入り
おつとせと。申給ひと。太上天皇弘福寺に
まよとせと。高野たかのより教よかよひ給らんみら乃を
かりやとせと。よりとまよとせと。弘法寺に
あつとせ天皇此御教あり。同四年二月廿八日。法
門くつとせと。い乃あまよ。おつとせと。給ひて。院よ

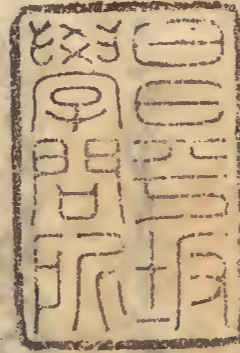
うりたつとせと。あり

才五十五

仁明天皇

嘉祥三年三月廿一日崩 年四十一 葬深草山陵

次中忍刀や仁明天皇と。き。嵯峨天皇此才二
御子。母太皇太后橘嘉智子あり。弘仁十四年东
まよとせと。天平十九年十一月十六日位よ
けさ給よ。此年廿四世と。より給あるが十七年。はさ
るりくと。菅原のむと。よりみと。むたひと。まよとせと。
まよとせと。御子の乃うのあへ。あまのあもよと。は
まよとせと。を。あへと。はさこる。さるへあつとせと。ま
んあつとせと。あり。あつとせと。慈覺大師じぎやくだいし此法このしつぽう種と。り
まよとせと。承和元年正月二日淳和院へ朝觀あそく行幸



乃らよあまのあしひくをさあまのひらめをすてか
 されん。我むより思んともくわればあめの大鏡巻も
 凡^たまをすべあまを佛比大圓鏡智のかがみよ
 思よもをさよびゆく。あはれもさく大みかんの思
 ひよそへもぞおかしらあま——くかみかんとよな
 ぬりかんのうらみ乃ほごはるごうむむとくあま

(Faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through or a second draft.)

(Small handwritten mark or characters in the top left corner of the left page.)

